

修理工事の記録



3年半にもわたる工事、見どころをご紹介します

協力：田中社寺株式会社

公益財団法人文化財建造物保存技術協会

古い建造物では、雨漏りによる腐朽や虫害、地震・台風のような災害被害などにより、材料が傷み建物が弱ってしまうこともあります。その場合に伝統木造建築で行うことのある手段が「解体修理」です。

伝統木造建築では、丁寧に作業することで、材料をあまり傷めずに建物をほどこっていくことが出来ます。バラバラの状態にして傷んだ部分を繕いあるいはどうしても使えない場合は取替え、また元の形に組み立てる。これら一連の作業を「解体修理」といい、文化財建造物を長く将来まで維持保存する手段として行われるものです。今回は屋根から解体を始めて、建物の骨組みを途中まで解体する「半解体修理」を実施しました。



工事前



工事後



工事前



工事後



建物および内部の須弥壇・展示物などにはお手を触れないようにお願いいたします。



解体・調査↓

組立・復旧↓

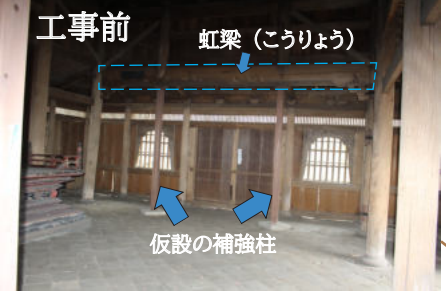
■屋根の葺き替え【屋根】
建物本体（身舎）は茅葺屋根、周囲（裳階）は柿葺屋根。どちらも植物を材料として作られているため経年劣化が著しかったので、新しい材料で葺き替えました。新しい材料を使っていますが、仕様（葺く方法、材料の種類など）は前回までと同じ伝統的なやり方を踏襲しています※。※一部調査に基づく変更あり



工事前

茅葺屋根の特徴的な仕様「軒蛇腹」。軒裏に太さの揃った篠竹を節を揃えて整然と並べています。

■新たな構造補強【虹梁】
建物内部の構造的特徴である三間虹梁は、長さに対して薄く細すぎたため、工事前は上からの重みでたわんでしまい、下から補強柱で支えていました。今回工事では補強方法を改めたため、補強柱のない広々とした空間となりました。



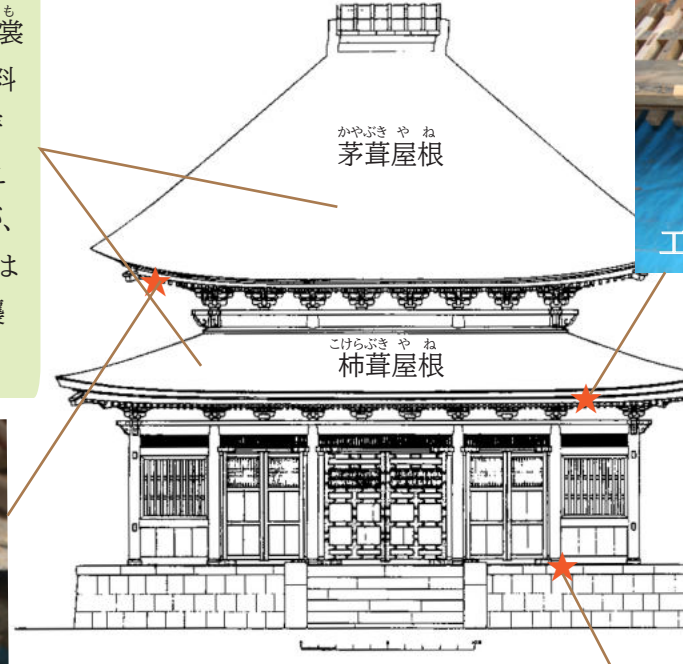
工事前

虹梁（こうりょう）

仮設の補強柱

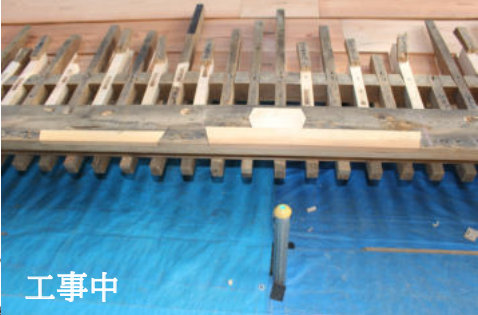
■耐震補強【壁など】
この建物は関東大震災で被害が発生したことが痕跡から確認されており、また検査の結果大地震では倒壊するリスクがあることが指摘されました。そのため耐震補強工事を行いました。文化財としての価値を損なわないように見た目や材料に配慮した設計・施工を行いました。

★・・・見どころポイント！



茅葺屋根

柿葺屋根



工事中

■必要に応じた取替修理①【各所】
建物を構成する木材は、腐りや風化などにより力を担えなくなってしまう場合には、健全な所を極力活かして部分的に繕い補う修理を行いました。「矧木」や「埋木」といわれる、日本が誇る「匠の技」です。



工事後

瓦製のタイルが内外部に敷き詰められています。斜めに並べる「四半敷」という禅宗様の特徴的な仕様。

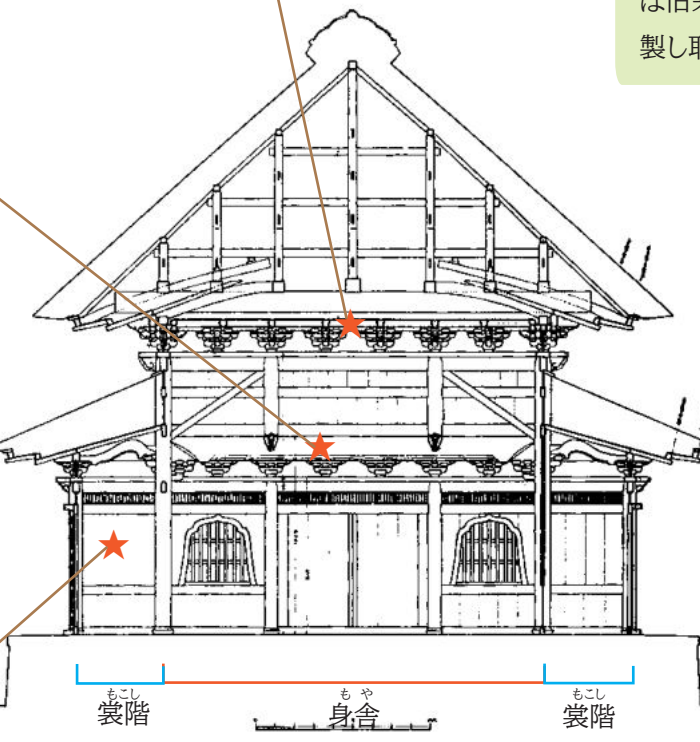
■必要に応じた取替修理②【各所】
建物を構成する部材全てが歴史を伝える貴重なもの。しかし傷みが著しく再利用できない場合もあります。その時は旧来の仕様に準じて新しいものを作製し取替えました。

■由緒を受け継ぐ【建具など】

この建物は徳川忠長の御殿の材料を再利用したことが推定されていますが（詳しくは裏面参照）、再利用にあたってこの仏殿造営のために材料を加工しているため、御殿の建物としての具体的な面影はありません。しかし再利用の痕跡はあちこちに見られます（天井もその一つ）。是非探してみてください。

◆探してみてね◆

扉：そのまま再利用したのものがあるっぽい。一部漆塗の痕跡あり。元は引き戸だったよう。



裳階

身舎

裳階

国指定重要文化財 旧東慶寺仏殿保存修理工事完了記念公開

協力：公益財団法人文化財建造物保存技術協会

資料提供：中尾七重氏（木質部材研究所）、門叶冬樹氏（山形大学理学部）

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE

文化財の概要

名 称：旧東慶寺仏殿
構造 及び 形式等：桁行三間、梁間三間、一重もこし付、寄棟造、茅葺、もこしこけら葺
年 代：寛永 11 年 (1634)
指 定 年 月 日：昭和6年 (1931)12 月 14 日

経 歴： 縁切寺・駆け込み寺の名で知られる鎌倉・東慶寺にあった禅宗様の建物。東慶寺は明治時代以降衰退し、建物の維持が困難になっていました。これを憂えた原三溪は、明治 40 年 (1907) に三溪園に移築しました。この時、三溪によって建物内に納められた棟札には、禅師説法の道場にするため、そして三溪園の鎮護とするために移築したことが書かれています。

工 事 内 容：半解体修理（茅葺・柿葺屋根葺替含む）、および耐震補強工事

半解体調査だからこの発見！

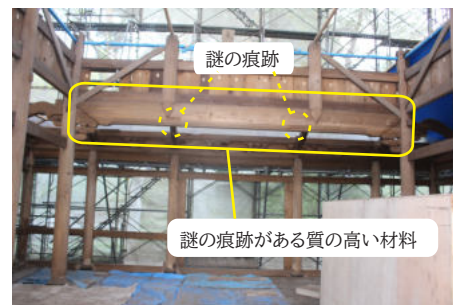
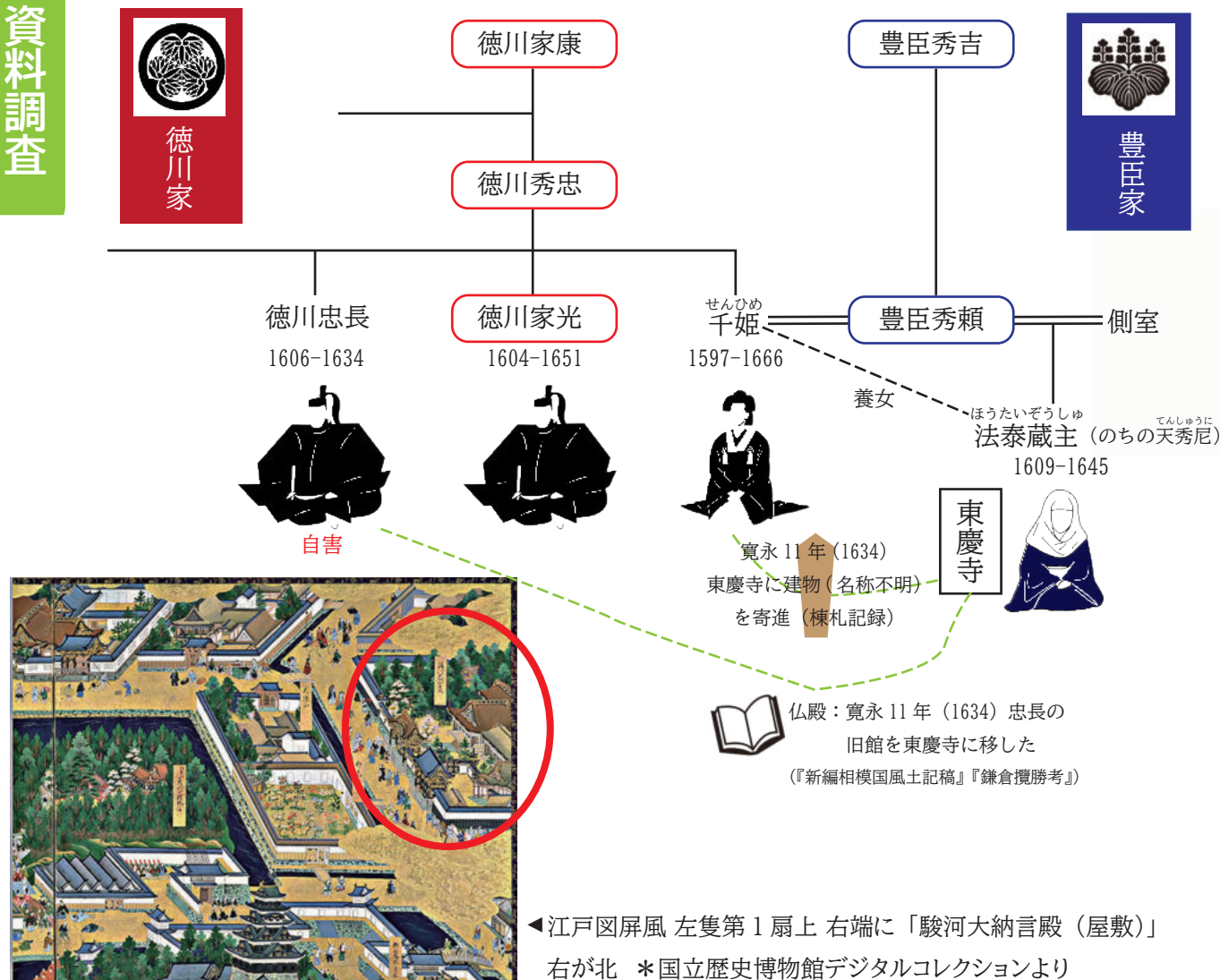
ただなが 家康の孫・徳川忠長の 御殿をリサイクル？

— 旧東慶寺仏殿大規模修理から見えてきた建築年代 —

新説 徳川忠長御殿の材料をリサイクルし、新材を補って、寛永 11 年に鎌倉で新築

← 今までの説
寛永 11 年に鎌倉で新築
(文化庁建造物目録) (関口欣也説)

資料調査



放射性炭素年代調査

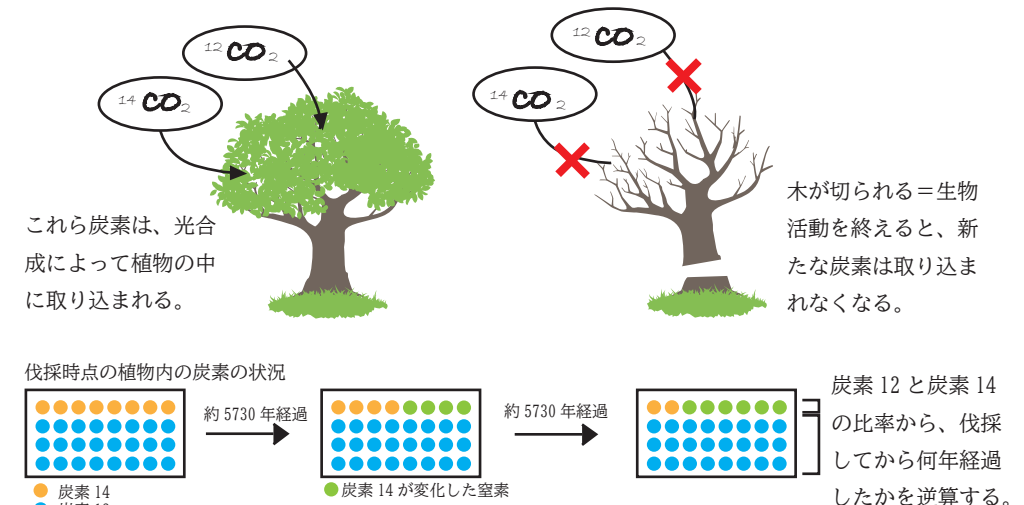


放射性炭素年代測定法とは？

自然界には炭素 (C) 同位体として、安定した炭素である炭素 12 と、安定しない (放射性) 炭素の炭素 14 が一定の割合で存在する。
※同位体：同じ原子でも中性子の数の違いにより質量数が異なるもの。

$^{14}\text{C} \longrightarrow ^{14}\text{N}$
安定しない (放射性) 炭素の炭素 14 は、安定した形の窒素 (N) に変化していく性質がある。炭素 14 は約 5730 年で半分に減っていく。

※大気中では宇宙からの高エネルギーの放射線の影響で炭素 14 が常に生成されているため、大気中の炭素 14 の量はほぼ一定。



※この調査でわかるのはあくまで「木を伐採した年」であり、建物の建立年代と直結しません。しかしその他の情報と総合することで、測定によって検出した値に意味を見出すことができます。

痕跡調査 & 科学調査